

今日の説教のポイント<マタイによる福音書8章5-13節>

①イエス様は私たちが癒し（いやし）て下さるために来られたお方。

イエス様の癒しの奇跡が立て続けに記されています。この時から2千年後の今、セラピー（治療）という言葉が使われていますが、今日の箇所ではイエス様が「私が行って、いやしてあげよう」（7）と言われている中の「いやし」（セラピュオー）という言葉がその元のギリシア語です。イエス様は私たちがいやすために来て下さったお方なのです。それは、体や心の病気のいやしだけではありません。私たちが造り、生かして下さっている神様との関係を取り戻す「魂のいやし」のために来て下さったお方なのです。

②「信仰」とは「信頼」すること、どんな時にも主を信頼し通すこと。

かつて、「信仰」と言うのと「信じて仰ぐ」の通り、なにか超越的なものを理屈抜きに信じなくてはならないかのように思っていました。しかし、「信仰」と訳されている語の元のギリシア語（ピスティス）が「信頼」とも訳せる言葉であることを知って、その思いは変わりました。「信仰」とは堅く「信頼」することなのです。今日の箇所でも、イエス様が「これほどの信仰を見たことがない」（10）と言われた所も、「これほどの（私への）信頼を見たことがない」と読み替えればよく分かります。イエス様というお方が信頼するに足るお方かどうか、聖書を読んで良く考える。それでイエス様は信頼できるお方だと思ったら、今度は私たちの方がイエス様を信頼して生きる者となる。それが「信仰」なのです。

③イエス・キリストというお方が大事。そこに全ての人が招かれている。

イスラエルの人たちは、神様が送られたイエス・キリストの重要性が分かりませんでした、分かろうとしませんでした。人間の最大の罪の姿です。その人たちへのイエス様の断罪の言葉（11～12節）が厳しいからと言って、イスラエル人を見下げてはなりません。彼らの姿は私たちの姿、私たちの姿は彼らの姿だからです。

しかし、そんなどうしようもない存在である私たちが救うために、神様は御子イエス・キリストによる救いを用意して下さったのです。この救いには全ての人が招かれています。イスラエル人もまた然りです。後は、私たちがそのお招きに応じて生きて行くかどうかです。